



磐梯山とそば畑（磐梯町）



磐梯山と猪苗代湖（猪苗代町）



銅沼と爆裂火口壁（北塩原村）

ジオパークとは



ジオパークとは、人と大地の関係を、楽しみながら学習できる自然の公園です。地質や地形だけではなく、すばらしい景観や貴重な動植物をはじめ、文化や歴史、さらにはおいしい食べ物や温泉など、大地の上のすべてのものをまるごと楽しもうというもので、大地を楽しく学ぶテーマパークです。磐梯山ジオパークは2011年9月5日に日本ジオパークに認定されました。

磐梯山ジオパークの範囲と体制

【範囲】北塩原村・磐梯町・猪苗代町の3町村にまたがり、磐梯山を中心に、猪苗代湖、裏磐梯湖沼群、猫魔火山・雄国沼、川桁断崖などを含みます。

【特徴】火山活動がつくった地形と水、1888年噴火と復興、信仰、農業、観光を「大地・自然・人」の物語で結びます。

【体制】協議会と3町村を中心に、学校、研究機関、環境省、関連施設、ガイド、観光・商工団体、事業者、地域団体、住民が連携しています。

火山活動と1888年噴火 | 湖沼群と現在の景観が生まれるまで

①火山の形成

磐梯山は数十万年にわたり、噴火や侵食、山体崩壊を重ねて形成された活火山です。南側の穏やかな山容と、北側の荒々しい火口壁という異なる表情を見せます。

②1888年噴火

1888（明治21）年7月15日、水蒸気爆発で小磐梯が崩壊。岩なだれが北麓を襲い、477人が犠牲となりました。爆裂火口壁は災害の規模を今に伝えます。

③湖沼群の誕生

崩れた土砂が谷や川をせき止め、桧原湖、小野川湖、秋元湖、五色沼湖沼群など300余りの湖沼が形成されました。流れ山も噴火の痕跡です。

④復興と森林

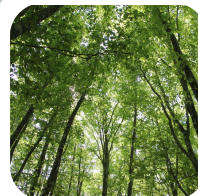
噴火後は植林、砂防、道路整備などが重ねられ、森林と水辺の景観が育ちました。現在は観光、自然体験、防災教育、研究の重要なフィールドです。

民謡『会津磐梯山』の「宝の山」 | 名所だけでなく、地域を形づくるすべてが宝



大地・水

火山活動と山体崩壊は、爆裂火口、岩なだれ堆積物、流れ山、裏磐梯の湖沼群をつくりました。猪苗代湖、湧水、温泉、山塩も、大地と水の循環がもたらす恵みです。



自然・景観

噴火後の荒れ地には植物が入り、森林が再生しました。湖沼、湿原、ブナ林、高山帯など環境の違いが、多様な動植物と四季折々の景観を育てています。



歴史・文化

磐梯山は信仰の山でもあり、慧日寺や神社、修験道などの文化が育まれました。噴火災害と復興、安積疏水、祭礼や伝説には、大地と生きた人々の記憶が残ります。



産業・暮らし

水、土、雪、森林、湖沼景観は、米、そば、高原野菜、山塩、温泉、宿泊、登山、スキー、自然体験を支えます。これらを守り伝える事業者や住民も地域の宝です。

この地域でジオパークに取り組む意味

地域を知る

身近な景色や食、商品が、なぜこの地域にあるのかを大地・自然・歴史との関係から整理します。地域の価値を共有することが、誇りと説得力ある案内の出発点です。

地域を守る

地形、湖沼、湿原、森林、湧水、史跡などの変化を継続して把握し、管理者や利用者と共有します。守る理由と適切な楽しみ方を伝えることも保全です。

地域で育てる

子ども、ガイド、事業者、住民、行政職員が地域を学び、それぞれの場で自分の言葉で伝える担い手になります。町村や分野を越えた協働も育てます。

仕事に生かす

宿泊、食、物販、体験、交通、接客に地域の物語を加え、ここならではのサービスへ磨きます。ガイド、農業者、施設、他の事業者との連携が周遊と消費を生みます。

運営体制 | 3町村と多様な地域の仲間が、調査・保全・教育・活用を横断して進める

【協議会】総会、運営委員会、調査研究・教育普及・広報啓発の専門部会、専門員を置く事務局が、基本計画とアクションプランに基づき事業を進めます。福島県と3町村が運営を支えます。

【地域の仲間】学校、大学・研究機関、博物館、環境省、観光協会・商工会、関連施設、ガイド、地域団体、農業者、宿泊・飲食・交通・物販事業者、住民が知識、人材、現場情報、発信力を持ち寄ります。

現在の主な活動 | 写真で見る実践

学校教育



地域内の小学校を中心に、小・中・高校へ出前授業と現地学習を行っています。火山活動、1888年噴火と復興、湖沼や森林、歴史文化を、理科・社会・総合学習、防災、SDGs、探究学習と結び付けます。ジオガイドも授業や教育旅行を支え、地域を自分の言葉で説明できる次世代の担い手を育てています。

調査研究



専門部会、大学、研究機関、博物館等が、地形・地質、岩なだれと流れ山、湖沼・水環境、土壌、森林遷移、動植物、歴史文化を調査します。研究成果は、ジオサイトの価値付け、保全計画、学校教材、展示、講座、ガイド解説へ還元。地域の成り立ちを根拠をもって伝え、防災や環境保全、観光にも役立てます。

保全・モニタリング



保全計画に基づき、地質露頭、爆裂火口、流れ山、湧水、湖沼、湿原、史跡など82か所を継続して観察・記録します。植生、崩落、浸食、踏圧、案内設備、利用状況等を確認し、環境省、管理者、専門家、町村、ガイドと共有。変化を早期に把握し、安全な利用と保全の両立につなげます。

ジオガイド養成



山岳、自然、歴史分野のガイドが、3町村を横断して案内できるよう、地学、生態、歴史文化、防災、安全管理、解説技法を学びます。養成講座、認定、現地研修、継続研修を実施し、「ぐるっと磐梯山」の視点で大地・自然・人の関係を伝える力を育成。教育旅行や多様な来訪者への対応力も高めます。

普及・情報発信



フォーラム、専門家講演、地質の日ジオツアー、企画展示、イベント出展等を通じ、住民と来訪者が地域の価値を知る機会をつくれます。広報誌、パンフレット、お宝ガイド、案内看板、ウェブサイト、SNS、動画、ジオパーク通信も活用。点在する見どころを、火山・自然・人の物語としてつないで発信します。

地域連携・活用



学校、環境省、関連施設、大学、ガイド、地域団体、観光・商工事業者、住民と連携しています。教育旅行、自然体験、ジオグルメ、ジオパークカレー、若手農家、フェノロジーカレンダー、展示、ツアーなどへ地域資源を展開。今後は宿泊、食、商品、交通、ガイドを結び、滞在・周遊・地域内消費につなげます。

関連する取組・発信の例

学び・体験

ジオ散歩、教育旅行、自然観察、防災、SDGs体験等を通じ、大地と災害、復興、産業、暮らしを結び付けて学びます。

食・商品・施設

山塩、地域産品、ジオグルメ等を大地の背景とともに紹介。関連施設を学習・ツアーの拠点として結びます。

地域資源と物語

お宝ガイド、地図、展示、フェノロジーカレンダー等を作成し、専門情報や地域の暮らしを物語で伝えます。

広域連携

環境省、近隣ジオパーク、大学等と連携し、国立公園の保全、環境教育、人材育成、国内外の事例共有に取り組みます。

今回の研修で考えたいこと

隠岐の事例をそのまま磐梯山地域に当てはめるのではなく、取組が生まれた背景や、地域の人・組織を巻き込んだ過程を学び、磐梯山地域に既にある資源、人材、施設、活動とどのように結び付けられるかを考えます。

【事業者】自社の宿泊、食、物販、体験、交通、接客、情報発信に、どの地域資源や物語を取り入れられるか。既存の商品やサービスに地域らしい価値を加え、滞在時間の延長、周遊、地域内消費、再訪につなげるには、どのような連携や工夫が必要か。

【議員・行政】3町村の連携を進めるために、行政、協議会、観光・商工団体、事業者、ガイド、地域住民がどのような役割を担うべきか。人材育成、制度、予算、施設、情報発信、保全との調整など、地域の取組を継続的に支える仕組みをどう整えるか。

【共通】自分たちの地域や仕事と結び付けられる資源は何か、誰と連携できるか、まず小さく試せることは何かを考えます。来訪者の満足だけでなく、事業者の収益、地域への誇り、担い手の育成、自然や文化の継承にもつながる取組を目指します。